



みんなて担ぐ！ 峯部神社例祭神事

1_ 他の自治会の助っ人も加わりみこしを担ぐ 2_ 仲良しの友だちと一緒に 3_ 流鏝馬で祭りの盛り上がりも最高潮に 4_ みこしが並ぶと一気に祭りのムードに 5_ 声を張り上げ、祭囃子を奏でる太鼓みこしの乗り子 6_ 担ぎ手のさわやかな笑顔 7_ 練り歩くみこし行列 8_ 地域の人々の声援に応じてみこしを担ぎ上げる 9_ 馬とともに練り歩く口持 10_ 子どもみこしも大きな声で盛り上げる

10月9日、峯部神社（氷上地域）で例祭神事が行われました。峯部神社は日本一低い谷中央分水界、水切れにある古社。延長5年（927年）の延喜式神名帳（全国の神社一覧）にも記載されています。地頭・石生新町・領町・南町の各自治会と神社みこしの5基が、約4時間かけて練り歩きます。地域の人や里帰りした家族たちの声援を受け、大きな掛け声を合図に、みこしを担ぎます。宮入の際には、みこしを担ぎ上げ、神社の鳥居の前を3往復駆ける「練り込み」が行われます。

4自治会は、市内では人口減少率の低い地域です。それでも、近年は徐々に担ぎ手が少なくなり、単独自治会の担ぎ手だけでは、練り込みが困難なところもあります。人手の少ない自治会が練り込み際、「頼むわ」と声がかかると、他の自治会の担ぎ手が「はいよ」「任しとけ」と明るい返事ひとつで助っ人に加わります。

白・黒・赤、複数色のはっぴが隣合ってみこしを担ぐ様は、まさに祭りの見せ場。互いに助け合い、伝統を守る担ぎ手たちに、観客から惜しみない拍手が送られました。